

人権ふおーらむ ～「ひとこと」から「わがこと」へ～



「ひとこと」から「わがこと」へをキーワードとして、「愛南町人権ふおーらむ」が御荘文化センターで開催され、町内外から約400名が参加しました。

本年度のパネリストには、宇和島市教育委員会人権啓発課の首藤将文さんと町建設課の藤田有紀さんを迎え、また、これまで継続して「人権ふおーらむ」に関わっていただいた徳島県藍住中学校教諭の森口健司さんがこれまでの取組を振り返りながらコーディネーターとして全体進行を務めました。



首藤さんからは、「宇和島市高校生友の会(高友)」の活動からの問題提起がありました。

「高友」の活動のひとつに、「全国高校生集会」への参加があります。その集会には、全国各地から高校生が集まり、差別に堂々と向き合っている子、差別から逃げたいと思う子、ひたすら隠そうとする子、様々な高校生の姿が見えます。

その会場で、誰もが堂々と自分の意見や悩みを発表し、大勢の前で自身身をさらけ出している姿を見て、宇和島の「高友」の一人一人が「かっこいい」と思うようになり、「将来、自分もあんなふうになりたい」とつぶやくようになってきました。

目標をもって活動するようになった「高友」の高校生は、やがて後輩から「かっこいい」、「あんなふうになりたい」と目標にされる存在になってきました。

先輩の姿を見て後輩が育っています。この子たちが活動する場、活動できる環境を守ることが私たちの責任です。学校や地域が行政と連携し、積極的に子どもたちと関わり、この子たちを核にして人権尊重の精神を広げていきたいです。



藤田さんからは、平成21年4月から「解放未来塾」の子どもたちと関わり、真剣に研修をしている子どもたちと共についていきたいという報告がありました。

「解放未来塾」とは、差別をなくしていくための行動を起こすことができ子どもたちを育てようと平成17年4月に発足した組織です。

塾生はこれまでの活動で、今ここに差別があることをしっかりと認識し、差別をなくすために自分にできることを一生懸命に探り、世の中に存在する様々な差別を「わがこと」として真剣に受け止めて考えられるようになってきています。

指導者の一人として塾生の一歩前を歩みたい。せめて半歩前を歩みたいと行動を起こしたとき、身の回りにはある差別が「ひとこと」から「わがこと」に考えられるようになってきました。

今年度、町では、職員人権・同和教育研修主任を各所属部署から55名選任し、講座の受講、研究大会等への参加、所属ことでの定期的な研修会や学習会の開催を通して、職員一人一人が「差別」について「わがこと」として受け止められるような取組がスタートしました。

トしました。これからは、差別解消に真剣に取り組む「解放未来塾」の子どもたちと共に歩いていきたいです。

二人のパネリストからは、これまで関わってきた宇和島市高校生友の会の高校生や愛南町解放子ども会「解放未来塾」の塾生が、どんな思いや悩みを持っているのか、将来何をめざそうとしているのか、また、指導者としてその子たちをどう導いていけばいいのか、指導者としてこれからの自分はどうあるべきなのかということ、具体的な実践を通して問題提起がなされました。

後半は、その問題提起を受け、参加者それぞれが自分自身の思い、悩み、決意をじっくりと語り、また、その言葉を「わがこと」としてそれぞれがしっかりと受け止め、さらに語り合いを深める貴重な時間になりました。参加者それぞれが心の壁を取り払い、自分自身の「しんどいこと」を語り合い、認め合うことは、誰もが心地良くと感じる時間になりました。

「愛南町人権ふおーらむ」は、誰もが何のためらいもなく、心を開いて同和問題や差別のことを話し合い、お互いを認め合い、尊重し合って、共に生きることが考えられることが目的です。そのことは、結果的に差別や偏見のない明るい社会づくりにつながっていくからなのです。